

これが秋の取り組み「東海原発 再稼働反対 廃炉に!!!」

署名2万筆・平和広告賛同者拡大をやいさろう!

1 各平和の会・平和委員会は、事務局会議や役員会等を開催し、取り組みを具体化しよう。

2 「日本平和大会 in 沖縄」で、平和を語ろう

・11/25(金)~27(日) まで、参加者を募ります。

3 秋の取り組みの中心は下記の4点!!

1: 地域に平和チラシ(東海原発は廃炉に)を配布する

- ・「いつ、誰と・・・」「何枚・・・」「どこへ・・・」「方法は・・・」等を決めます。宣伝カーなどを活用すると元気が出ます。
- ・チラシには、各平和の会・平和委員会名を入れられます。

2: 「平和意見広告」賛同申込者を作り出す

- ・11月20日(日)の茨城新聞紙に掲載予定です。
- ・県民の願いは「東海原発再稼働反対」です。大いに賛同を広げましょう。

3: 「東海原発を廃炉に」の署名をさらに拡大する

- ・理事会は「会員1人あたり20筆」「全体で2万筆」を目標にしました。
- ・1次締め切りは、10月末日 最終は11月20日(日) 県民集会時
- ・他団体と別です。他で署名した方でも、署名はできます。

4: 「11月20日(日) 脱原発集会」参加者を増やす

- ・核汚染等のルポ・ライターで有名な森住卓(もりずみ たかし)氏を招いての講演。
演題: 『世界の核汚染と福島』
- ・全体で300人の参加を予定します。
資料代=500円です。
- ・場所は、「県立青少年センター」(県歴史館前)です。

東海第二原発を 廃炉に!



「2011年日本平和大会 in 沖縄」学習パンフ『いま私たちの進むべき道は?』 頒価 300円で発売中

「さよなら原発大集会」

への取り組みと参加

「九条の会かさま」 多崎 貞夫 (笠西平和の会)



8月の中ごろ、近くの陶芸家のお宅を訪ねたとき、奥さんのKさんから「9月19日の集会に九条の会では参加しないのですが。バスが出れば参加したいのですが」と言われました。そのお宅ではお子さんのいるお嫁さんが以前から市内の若いお母さんお父さんたちと署名を集めて、市に対して原発事故対策の要望書を提出するなどをしておられたのでした。しかし、「九条の会かさま」ではその時点では集会参加の話は出ていなかったの、私は「今度の世話人会で相談して見ましょう」と答えてそのお宅を辞しました。

しばらくして開かれた「九条の会かさま」の世話人会では、「本来ならそのお母さんたちで集会参加の企画などをしてほしい」とか「共催の形でできないだろうか」などの意見も出ましたが、実際上それは無理との判断で、私たちが企画立案、チラシ作成、参加者呼びかけなどをすることを決めました。

奥さんのKさんからはそのあと電話で「みんなで赤いスカーフをまいて参加したらどうでしょう。よければ私が用意しますから」という提案も出され、それを受けて次の世話人会では「みんなで麦わら帽子をかぶって行こう」「自分はゼッケンをつくる」「旗もつくろう」などの提案が相次ぎました。こうして300枚のチラシをつくって各方面に配り、参加者を募りました。19日直前の参加希望は50名ほどになり固定座席数をオーバーするほどでしたが、当日朝のキャンセルが出て結局38名の参加となりました。

会場の明治公園は開会前から大変な人と旗とゼッケンであふれ、壇上からはオープニングセレモニーのにぎやかな歌や音楽が流れて特別な雰囲気です。後で聞くと、千駄ヶ谷駅や信濃町駅のホームから会場までが人並みで埋まり、会場に入りきれない人たちが周辺を埋め尽くしたそうです。その中を会場で私たちの集団を探し当てて加わった人が7名いました。私のかつての教え子2名も東京と千葉から駆け付け感動の対面となりました。大変な人ゴミの中で落ち合えたのは、私たちの麦わら帽子に赤いスカーフのいでたちが目立ったからでした。

私たちが会場に入って30分も過ぎて、ようやく開会となり大江健三郎氏や鎌田慧氏など主催者代表が次々あいさつに立ちましたが、壇上のマイクの性能が悪く多くは聞き取れなかったのは残念でした。太鼓やシンバルの勇壮な音の中、パレードが始まりました。パレードとは言っても、シュプレヒコールもあり、「意思を表示している隊列」ですから実質はデモ行進です。会場から渋谷方面に出るのがAコース、原宿方面がBコース、新宿方面がCコースですが、私たちはAコースでした。沿道の人たちからも声援が飛ぶ中、NHK近くの代々木公園まで約1時間を歩いて流れ解散をしました。

後日の世話人会でこの日のまとめをしましたが、誰もがまだ興奮を持ち続けているかのような発言が相次ぎ、「集会があればまた参加したい」と意気軒高のまとめとなりました。

平和新聞

2011年10月5日(水曜日)

1968号 (毎月5,15,25日発行)

1950年12月16日第三種郵便物許可 発行 日本平和委員会
1部140円 月額400円 〒105-0014 東京都港区芝1-4-9 平和会館
(郵送料月額120円) 電話03(3451)6377 FAX03(3451)6277

平和かわら版 平和新聞茨城版 No. 606

2011.10/5

発行: 茨城県平和委員会 〒310-0912 水戸市見川5-127-281
Tel/Fax 029-251-2806 E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

子どもたちと平和と絵本

田中日出夫（みとみなみ平和の会）

秋の虫 鳴いて震災より 六ヶ月
今ある我等の 幸せ 思う



あの震災で、わが家は屋根瓦がずれ、タイルにひびが入り、南側を向いて作られた本棚の本はみんな床に散らばった。本を片づけながら、小学校の教師をしていた時、6年の歴史の授業で使った絵本を久しぶりにみた。

『絵本 東京大空襲』

：早乙女勝元 作、おのざわ・さんいち 絵（理論社）

『猫は生きている』

：早乙女勝元 作、田島征三 絵（理論社）

『ひろしまのピカ』

：丸木俊文・絵（小峰書店）

『おとなになれなかった弟たちに…』

：米倉齊加年 文・絵（偕成社）

『沖縄いくさ物語 りゅう子の白い旗』

：新川明文、儀間比呂志 版画（築地書館）

『野麦峠をこえて』

：山本茂美文、佐藤忠良 絵（ポプラ社）

教科書の記述や資料集だけでは、なかなか理解がむずかしい内容を助けるためにずいぶん役立ったものである。野麦峠を越えた女工の生活などが、当時の日本経済の基盤になっていたことなどにも気付かせることができた。

この絵本は孫にやるつもりだったが、まだ2年生。いつもお世話になっている理髪店の上の娘さんが高学年なのを思い出して差し上げた。

絵本ではないが、野坂昭如の『火垂るの墓』は読んでいない。アニメにもなったが見ていない。戦争中、兄妹一緒に逃げていて、妹をなくすという筆者の体験をもとに書かれたものだけのことだけを知っている。筆者の思いのつらさを思うととても読めなくて、手が出せないままになっている。そんな本があってもいいかなと思っている。そんな本があることを胸にしまっておきたいと思う。



「放射線による健康被害について」

茨城保健生協主催の学習会を開催



中山 弘子
(花だいこん)



福島で住民とともに放射能汚染と日々たたかっている、福島医療生協いの診療所所長の松本純医師を講師に「放射線による健康被害について」の学習会が茨城保健生協主催で開催されました。

松本医師は、「今回の福島原発事故で放射能の土壌汚染が東日本全域に、海洋汚染は世界的に広がってしまった。人体への影響は急性障害と5年後10年後にがんや白血病という形で現れる晩発性障害の2種類があるが、住民にとって晩発性障害が問題となる。年間100ミリシーベルトを浴びるとガンになる確率が0.5%上がる。それ以下は安全という専門家がいるがそれは疫学的に十分な証拠がないということで、健康への影響がないと証明されているわけではない。必要以上に怖がってはいけませんが、汚染状況を適切につかんで除染等の対応をしなければならない。放射線被ばくを押さえるには、①放射性物質からできるだけ離れる。②被曝時間を減らす。③放射性物質を遮ること。が基本である。

事故から半年がたっても事故収束の見通しが立っていない。福島では子どもたちを放射能汚染から守ることが深刻な課題で、各地で放射能の除染作業や夏のサマーキャンプのように現地から離れてのびのびと遊ばせる企画などが取り組まれている。原子力エネルギー開発は行き詰っており、私たちは原発ゼロをめざして行動を起こすしかない。」と語りました。

会場には子どもを連れてお母さんの姿も多く、そのうちのお一人から、「震災のあと体調を崩しがちで、これは放射能の影響でしょうか。」との質問がされました。松本医師から病気なのか、放射能の影響なのかを見極めることが必要。まず病院を受診して血液検査などをしてもらおうこと、3月11日以降にどこでどのようなことをしていたかを記録し、振り返ることができるようにしておくことが大切とのアドバイスがありました。

保健生協では放射線測定器の貸出しが始まります。芝生や雨どいの出口、大きな木の根元などの線量が高いと言われています。私たちのまわりを測定し、汚染場所の特定と安全を確認する「放射能汚染の見える化」に取り組みたいです。

【シリーズ】わか術 わか会員

水戸市 / 美濃輪 智博 さん（水戸市平和委員会）



「LOVE & PEACE」

学生の頃から大好きであったミュージシャンがピースサインでこの言葉を掲げていた。

当時その意味など真剣に考える訳などなく、瞬間の快樂と陶醉だけに時間を費やしていた。

しかし40歳を過ぎ、住宅ローンを抱え、子供たちが進学し、親族たちが一人また一人と鬼籍に入るようになり、いやでも人生の有限性を感じるようになった現在、この言葉の自分にとっての意味を真剣に考えるようになってきた。

自分にとって愛と平和とは？自分だけでそれが成り立つであろうか？愛と平和を社会全体が享受するためには？

「まずは自分の足元の愛と平和から考えよう。そのためには何をしたら良いのだろうか？」「無理をしないで良い。少しずつ前進すれば良い。自分の積み重ねたものが間違いであることに気付いたならば修正しよう。」

これが最近の自分にとっての答えである。

例えば、原発の問題がある。これは平和なんてどうでもよい独占資本が利益を得たいがために、政府の(農業では食っていけない政策)と一体になって進められてきたものである。この政策をこのまま続けていって市民は平和になれるであろうか？その解決には多くの問題があることは分かっている。しかしながら。

これからも色々な困難な局面がきっと来るであろう。そのたびに、私は「ジョン・レノン」の音楽を聴き返しなが、愛と平和について考え続けていこうと思う。

正確に知ろう 『放射能と被ばくのこと』

日時：10月19日(水) 受付 18:00 集会 18:30～20:00

会場：千代川公民館 1階ホール

(下妻市鬼怒230 TEL0296-44-3141)

入場無料!

☆ 報告：『被災地ボランティア報告』
井上規氏（下妻市職員組合）

☆ 学習：『正確に知ろう

放射能と被ばくのこと』

岩井孝氏（日本原子力研究開発機構組合）

主催：10.21 国際反戦デー下妻地区集会実行委員会

事務局：下妻市職員組合（TEL:0296-43-3710、直通・Fax兼用）